

添付資料①－１「国語科における実践」

２ 研究成果の概要（研究者：山内貴）

（１）研究主題

著作権を自分の身近なものとして捉え、その意義や必要性を理解するとともに、国語教科の観点から、読書をする習慣を喚起させる指導。

（２）研究のねらい

著作権に関する情報が昨今あらゆるところで採り上げられているが、教科の特性上、生徒にとって身近なものは文学作品への著作権意識である。生徒の「読書離れ」が進んでいると言われるが、携帯電話でメールに親しんだり、インターネット上での掲示板やブログの充実等、「活字離れ」が進んでいるとは言い難い。そこで、著作権は文学作品をはじめとして各種メディア、ひいては自分の発信する情報にも存在する「生活に欠かせないもの」として認識させ、著作権の正しい認識と使い方を学ばせる。また、インターネットでも文学作品を味わえる事を授業を通して知ることにより、様々な方法を通じて「読書体験」の可能性を提示し、「読書する習慣」を喚起させる指導を行う。

（３）研究の概要

前年度から研究を続けている小泉教諭の依頼を受け、情報教科のみならず学校全体で多角的に著作権教育を模索していくという取り組みの一環として、国語科における著作権教育の研究を研究担当者の授業を通じて行うこととした。

具体的には「著作権の消滅」に関する事項を生徒に提示すべく、本校１年次生の国語総合現代文領域で芥川龍之介の『羅生門』を授業実施し、その直後に本研究授業を実施した。したがって研究担当者の授業（国語総合現代文領域・週２単位×２講座：１時限４５分）が対象である。

はじめに身近な著作権問題を採り上げることによって、生徒への関心を持たせるべく、文化庁サイト、各種文献、インターネット上から情報を収集し、著作権の概要を説明できるような項目を盛り込みながら、身近な著作権に関するテストを作成し、解答させることにした。次に、直前に学習した芥川龍之介『羅生門』がテストの中の「著作権の消滅」に該当する文学作品であることを認識させ、そのような作品を集めたインターネット上のサイトの存在を示すこととした。このサイト（「青空文庫」<http://www.aozora.gr.jp/>）上には上記『羅生門』の他にも多数の作品が閲覧できることをパソコンを使いながら確認させ、気軽に文学作品を味わえる可能性を明示し、今後様々な形で「読書」する習慣を持てるように指導することにした。さらに、「消滅しない著作権」も作品作成者への使用許諾をとるという方法で様々な活動が可能になることを説明すべく、研究者が「総合学習の時間」に教材で使用した日本放送協会の番組作成者への放映許諾のやりとりをしたメールを提示することにした。著作権の解釈と行使の仕方を学び、自己の個人研究（１年次と２年次の総合学習内で実施）への活動の参考にすることも目指した。

添付資料①－１「国語科における実践」

（４）研究の成果

研究を授業内で行うという事が目標であったが、十分な準備が整わなかった。そのため、成果に値する事が大いに得られたとは言い難いかもしれない。しかし、国語科の指導という狭い領域に留まることなく、総合学習の時間への授業連携の可能性も示すことが出来たのは収穫であった。また、何よりも生徒が「青空文庫」のサイトを閲覧する姿を垣間見ながら、決して生徒たちは「活字が嫌い」な訳ではない事を研究者自身が認識できたことは、今後の教科指導において著作権をどのように活かしていくかの意識を改めて感じさせられた。

以下に本研究で得られた成果と今後の課題について示す。

【研究の成果】

（１）著作権において正しい認識を持つきっかけを与えられた

日常生活において著作権は避けられない問題であり、様々な場面で著作権の重要性を自覚することによって、「知らないうちに人が嫌がることをしない」という意識を芽生えさせられた。

（２）身近な読書機会の拡大を示すことが出来た

パソコンに向かう時間が飛躍的に増加した現代の生徒が一概に「活字離れ」「活字嫌い」とは言えず、実は活字に対する感覚は今までとは異なる形で磨かれており、その世代に対して、日常の生活の中に自然な形で「文学作品を味わう」可能性を持たせることが出来た。

（３）著作権における使用許諾の方法を示せた

テレビ番組の録画と視聴、という日常に最も身近ともいえる題材を使い、著作物には著作権があるが、必ずしも使用できないものではない。正しい知識に基づいて使用許諾を求めることによって、研究や発表等の自己活動に積極的に活かすことが出来る事を教え、さらにそのようなことを通じて自己のネットワークを広げることにもつながるという考え方を養えた。

【今後の課題】

（１）日常生活における著作権への意識づけ

今回このような形で著作権について授業する機会を得たが、授業だけに限らず学校生活全体を通じて「著作権を身近に」考えることは今後も求められるところである。また、著作権が消滅することと、それを情報として使用する側の意識（モラル）を養う必要がある。著作者や著作物そのものに対する尊厳は失われることはない。「人の嫌がることをしない」部分もふまえながら、「よいものを人に知らしめる」ために「青空文庫」のようなサイトが存在し、多くのボランティアがそこに携わっている事によって世の中に文学作品が様々な形で存在しているという事実を深めさせることが肝要である。

（２）読書スタイルの変化と本を読むということ

著作権指導を行いながら、文学作品を読む習慣を喚起する事を目標としたが、書籍には書籍の良さがある。単純な読書機会の拡大にとどまらず、一般的に「活字離れ」と評される生徒達の世代でも「活字に関する関心が高い」のは前述したとおりである。したがってそういった「活字への関心」を書籍の読者層として拡大させることは今後も継続的に行っていく事が当然ながら求められる。

添付資料①－２「国語科における実践」

NHKに送付した放映許諾のお願いの文面

初めまして。都立墨田川高校教諭の山内貴と申します。いつも番組を録画し、拝見しております。非常に良くできた番組で、感心させられることが多いです。これからもますます楽しみにしております。>

さて、本日お便りしましたのは、本番組を勤務校の総合学習の時間に使用させていただきたいというお願いです。私は現在、勤務校におきまして、1年の総合学習の時間のとりまとめをしております。進路指導部に所属している関係でこのような仕事を仰せつかっております。昨今の進路指導は「将来を考える」ものが中心で、単位制高校の顔を持つ勤務校でも、そのような指導が行われてきておりますが、果たして、そのように生徒達を急がせることが良いものなのか、単位制であるからこそ、「必要な」科目を修得するだけでなく、本当の意味で「将来を考える」ためにいろいろな事柄を知ってもらいたく考えるようになりました。昔、「モラトリアム」と呼ばれた世代の彼らに、「本当にモラトリアム」の世代になってもらうための一つの問題提起として考えております。実際の方法は録画した物を各クラスで視聴させ、個人の考えをまとめさせたいと思っておりますが、出来れば、同じ物を一斉に見せるのではなく、各クラスで異なった放送回（異なった職業）を敢えて見せてみたいと考えております。

昨今の著作権等の問題もあり、今回このような使用許可を取らせていただくことにいたしました。お忙しいところ恐縮ですが、来月中旬の授業教材を予定しておりますので、来月はじめくらいまでにご判断の回答をいただければ幸いです。今回の試みがうまくきましたら、1年でも別の機会を予定したり、2年生にも働きかけていきたいと思っております。もちろん、貴社から送付されております番組宣伝用ポスターは進路室前の一番見やすいところに掲示させていただいております。なにとぞ前向きなご回答をお願いいたします。

添付資料①－3 「国語科における実践」

「青空文庫」ってご存じですか？

～ちょっと変わった今どきの読書のススメ～

「青空文庫」という言葉を皆さんはご存じでしょうか？

私はちょくちょくお邪魔しているのですが、何のことかわからない方もいると思いますので、とりあえずはこんなお話から……。

話はいきなり変わりますが、最近世の中にだいぶん認知されてきた「著作権」という言葉。皆さんは「著作権」についてどのくらいご存じでしょうか？

まずはちょっとしたテストから。以下の質問について著作権上

問題がないと思うものには (○)

問題があると思うものには (×) を入れてみて下さい。

- (1) 好きなミュージシャンのCDをMDに録音して聞く。()
- (2) 好きなミュージシャンのCDをMDに録音して友達にあげる。()
- (3) レンタルショップで複数のミュージシャンのCDシングルを借り、自分だけのオリジナルベストをMDで作り、通学途中に聴いた。()
- (4) 文化祭の宣伝チラシにミッキーマウスのイラストを描いて配る。()
- (5) 吹奏楽部の楽譜を1部購入し、部員全員にコピーして配る。()
- (6) 先生が本からコピーしたものを授業で資料として配る。()
- (7) 読書感想文を本に書かれているものからほとんど写して書いた。()
- (8) ゲームのソフトを友達と貸し借りする。()
- (9) 学校のお昼の放送で、はやっている新曲のCDを流す。()
- (10) 学校祭で他人の書いた台本を演劇として上演した。()
- (11) 総合学習の時間でNHKの番組を勝手に録画して生徒に見せた。()
- (12) 代ゼミの模擬試験でハリーポッターの文章を問題として勝手に出題した。()
- (13) 定期考査で芥川龍之介の「羅生門」の文章を勝手に使って問題を作った。()